

学校だより



かもいの(な)(か)(ま) 一人じゃないよ!

夢に近づけ 今、鴨居がいいカモ!
横浜市立鴨居小学校

幼保小の交流から架け橋期の連携へ

こう ちょう つつみ たつとし
校長 堤 達俊

北門の階段を上がっていくと、ドウダンツツジの赤やイチョウの黄が秋の青空をバックに輝いて見えます。先日の土曜参観には、多くの保護者の方々に来校いただき、ありがとうございました。子どもたちも、演奏をしたり聴いたりして、充実した時間を過ごすことができました。

さて、1年生は、11月下旬から12月初旬にかけて、近隣の保育園との交流を進めています。コロナ禍で対面での交流が難しい時期もありましたが、昨年度から復活することができました。

今年度は、5年生も総合的な学習の一環で、来年度入学してくる園児に、鴨居小クイズやじゃんけん列車などのアトラクションを一緒に行いました。「4ヶ月後の新1年生」に喜んでもらおうと、来年度最高学年となる5年生は一生懸命プログラムを考え、積極的に関わっていました。

1年生は、園児の皆さんに、ランドセルを背負わせてみたり、お道具箱の中身を紹介したりしていました。また、ミニキーボードやタブレット端末に、園児が実際に触る機会を作っている子もいました。「防犯ブザーは、知らない人に声をかけられたら鳴らすんだよ。」「タブレットはこうやって使うんだよ。」という1年生のお姉さん・お兄さんの声に、「へえ、そうなんだ。」「たのしそうだね。」と答える園児の子どもたちの顔がほほえましかったです。

5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期であり、「架け橋期」と呼ばれています。本校では、近隣の幼稚園・保育園・小学校で職員研修や情報交換を実施して、この架け橋期の子どもたちをどのように育てるのか、ともに考え始めています。今後は、園と学校で育てたい子ども像を共有し、資質・能力ベースでつながりのあるカリキュラム作りを模索していきます。皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【鴨居の自然 ～アダンソンハエトリ～】

校舎の中で、アダンソンハエトリのオスを見つけました。大きさは6ミリほど。野外よりも建物内が好きなインドア派のハエトリグモで、網を張らずに壁を歩いたりピョンと跳ねたりするかわいい動きをします。白いひげのように見える顔や黒地に白いラインの模様の体がおしゃれで人気があります。

